

教育改善プロジェクト成果報告

中国語科目共通試験の実施方法についての報告 —授業外学習時間と学習方法—

福田 翔

本教育改善プロジェクト成果報告は、令和 5(2023)年度前学期に試行的に実施した中国語科目共通試験実施の実施方法について報告するものである。中国語科目共通試験は、基本的な語彙・文法知識の習得を確認することを目的とした試験であり、クラス間での試験の難易度等の相違による成績評価の不公平感を是正することを主たる目的としている。また、今後の共通試験の実施上の位置付け並びに実施方法等の検討を行うための基礎資料として、学習者の学習時間と学習方法についてのアンケート結果を整理して提示した。

1. はじめに

本稿は、教育改善プロジェクト「中国語科目における共通評価の導入と多面的評価システムの構築¹⁾」にて、令和 5(2023)年度前学期に試行的に実施した「中国語科目共通試験」について報告するものである。教養教育科目の中国語として、「中国語基礎Ⅰ・Ⅱ」と「中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」を開講している²⁾。授業については、同一名称科目のものが複数あるが、授業シラバスは基本的に共通のものを作成している。その中でも特に、「評価」をより公平なものにし、さらに学習目標に合わせた多面的な評価システムを構築することを目的とし、本教育改善プロジェクトを開始した。そこで本稿では、主に試行的に実施した中国語科目共通試験の報告と、学習者のアンケート調査から見られる学習時間及び学習方法の調査結果をあわせて報告する。

¹⁾ 富山大学教養教育院「教育改善プロジェクト」として、令和 4(2022)年 1 月に企画、立案したものである。プロジェクトの概要は、「中国語科目における『評価の共通化』と『多面的な評価システムの構築』について、同一名称科目間での評価の公平性、並びに中国語の授業の質保証のために実施する。具体的には、達成目標に沿った形で理解力を測ることができる共通試験を開発し、それを一定の割合で成績評価に導入する。また、その他、『話すこと、書くこと』等を含めた多面的な評価システムの構築を目指す」（富山大学教養教育院 HP 内「教育改善プロジェクト R4 年度」<https://www.isc.u-toyama.ac.jp/project/>参照）というものである。

²⁾ 令和 5(2023)年度は、「中国語基礎Ⅰ」及び「中国語基礎Ⅱ」はそれぞれ 15 コマずつ、「中国語コミュニケーションⅠ」及び「中国語コミュニケーションⅡ」はそれぞれ 8 コマずつ開講している。また、再履修クラスとして、前学期に「中国語基礎Ⅱ（再履修クラス）」、後学期に「中国語基礎Ⅰ（再履修クラス）」を設置している。

2. 中国語科目共通試験の作成・実施方法及び成績評価の位置付け

2. 1. 作成・実施方法

今回試行的に実施した「中国語科目共通試験」は記号選択問題で、基本的な語彙と文法知識の習得を確認するものとし、試験時間 10 分間、全 25 問（大問 5 題で各 5 問ずつ）を、「中国語基礎I」（令和 5(2023)年度前学期）の授業で実施した。取り上げた文法項目は下記の通りである³。

(1) 試験に出題した文法項目の範囲⁴

- | | | |
|--------------------------|-----------|------------|
| a. 人称代名詞 | b. 指示代名詞 | c. 方位詞 |
| d. 基本的な動詞（“是”“在”“有”等を含む） | e. 介詞“在” | |
| f. 連用修飾構造 | g. 連体修飾構造 | |
| h. 副詞“也” | i. 副詞“都” | j. 語気助詞“吧” |
| k. 疑問詞疑問文 | l. 省略疑問文 | m. 諾否疑問文 |

「中国語科目共通試験」の実施時期は、15 回目或いは 16 回目の授業とした⁵。今回は「中国語基礎I」の 10 クラスで行い、268 名の学習者が受験した。実施の手順は下記の通りである。

図 1 中国語科目共通試験の手順

時間	実施の手順	使用道具・機器
① 1分	「試験問題」と「解答用紙」を配布	・筆記用具を出す
② 10分	試験開始	・筆記用具を片付ける
③	試験終了	・解答入力端末を取り出す
④ 2分	「試験問題」を回収	(iPhone、iPad、Android、PC等)
⑤ 2分	Web版解答入力フォームへの「解答用紙」内容の転記	
⑥ 1分	「解答用紙」を回収	

まず、「試験問題」と「解答用紙」を分けて準備した。これは、図 1⑤で、解答を Web 版入力フォーム

³ 「中国語基礎」及び「中国語コミュニケーション」の授業では、それぞれ年度毎に教科書を選定し、基本的に毎年異なる教科書を使用している。令和 5(2023)年度、「中国語基礎I」では、陶琳『ここから始める基礎中国語 学汉语第一步』（朝日出版社，2023）を使用した。

⁴ 文法項目は、使用教科書『ここから始める基礎中国語 学汉语第一步』（朝日出版）の第 1 課から第 3 課の文法項目及び語彙を試験範囲とした。また、「中国語基礎」の授業は複数あり、複数名の教員がそれぞれ担当しているため、教科書及びシラバスを統一していても、授業の進度は異なることがある。そこで、共通試験の範囲は、共通試験実施時期に全クラスの進度を調査した上で決定した。また、問題の選定では、中国語教育学会学力基準プロジェクト委員会 2007『中国語初級段階学習指導ガイドライン』の文法項目表及び学習語彙表を参考にした。

⁵ 今回は試行的な実施であったため、15 回目の授業で実施するか 16 回目の授業で実施するかについては担当教員の裁量に任せた。

に転記する前に、不正防止のため「試験問題」のみ回収するためである。この Web 版入力フォームで解答を提出するシステムを構築することで、採点結果が瞬時に、しかも自動的に算出され、試験結果の整理が容易になる。入力フォームは、ウェブベースの「アンケート・テスト作成・管理ソフトウェア」で作成し、リンク先の QR コード及び URL を「解答用紙」に記載しておくことで、学習者が自分自身の端末を用いて、スムーズに WEB 版入力フォームに自分の解答を転記できるようにした。

今回の試行的な共通試験の実施の主な目的は、試験手順が妥当であるか、滞りなく進められるかという点を確認するためのものである。具体的には、下記のチェック項目に基づいて確認作業を行った。

(2)共通試験実施におけるチェックリスト

- a. 共通試験作成の方法及び手順は妥当か
- b. 試験問題の量と実施時間は妥当か
- c. 学生の入力端末の使用率はどれくらいか
- d. オンライン入力時の教室のインターネット環境に問題はないか
- e. 試験で容易に不正ができる可能性はないか

共通試験実施後、中国語教員会議⁶を開催し、主にこれらの項目についての問題点の共有や今後の課題について議論した。結果として、それほど大きな問題はなく、今回は、自分自身の端末を用いて回答を入力できなかった学習者もおらず、また教室のインターネット環境等で問題も起こらなかった。また、その他の項目でも、深刻なトラブルは報告されていない。

しかし、いくつかの問題点が出された。その中で試験中の不正の可能性に関して、次のような指摘があった。それは、「Web 版解答入力時に、自分の端末を取り出すため、インターネット等で答えを調べることができるのではないか」というものであった。しかし、それは解答入力端末を取り出す際に、筆記用具の片づけを徹底することで、手書きの解答用紙の記入の変更ができなくなり、もし異なる解答の入力があっても手書きの解答用紙を確認することで、不正は防止できるのではないかという意見が出た。また、「Web 版解答入力フォームへの入力時に、整理の便宜上、クラス情報や所属等を選択する項目を設けていたが、誤った入力もいくつか見受けられた」、「学習者が Web 版解答入力フォームへの入力作業が終わるのがばらばらであり、終了のタイミングが難しかった」等の意見は出たが、どれも微調整することで解決できるものと思われる。

2. 2. 成績評価の位置付け

中国語科目共通試験は記号選択問題の形式で実施し、基本的な語彙・文法知識の習得を確認することを目的とした試験である。そのため、中国語基礎の授業で設定している「達成目標」のすべてについて測定することはできない。

⁶ 令和 5(2023)年 8 月 31 日に中国語教員会議を開催した。

(3) 中国語基礎Iの「達成目標」

- ・ピンインに従って正確に発音することができる。
- ・150語程度の初級中国語の語彙を覚えて、言うことができる。
- ・中国語の辞書を引くことができる。
- ・中国語の文の基本構造及び基本的な文法を理解し、活用することができる。

(令和5(2023)年度「中国語基礎I」『富山大学ウェブシラバス(授業案内)』より抜粋)

(4) 中国語基礎IIの「達成目標」

- ・発音を聞いてピンインと漢字で書き取ることができる。
- ・300語程度の初級中国語の語彙を覚えて、言うことができる。
- ・中国語の平易な文章を読むことができるようになる。
- ・覚えた語彙や文法を使って、まとまった文章を作ることができる。

(令和5(2023)年度「中国語基礎II」『富山大学ウェブシラバス(授業案内)』より抜粋)

つまり、中国語科目共通試験は、あくまでも一定の割合で成績評価に導入するものであり、その他に発音や発話、習得した文法を活用する能力、中国語を読んだり書いたりする能力の確認も必要である⁷。よって、今後、これらの試験方法も含めた多面的な評価システムの構築を目指している。また、これまで、主に中間試験・学期末試験と、文法を中心とした筆記試験を軸として成績評価を行っている傾向にあるものを、中国語科目共通試験を実施することで、個々の教員が基本的な語彙・文法以外のより応用的な中国語を用いた活動の評価に注力し得る可能性も開けるのではないかと考えている。

3. 学習時間、学習方法から見る今後の課題

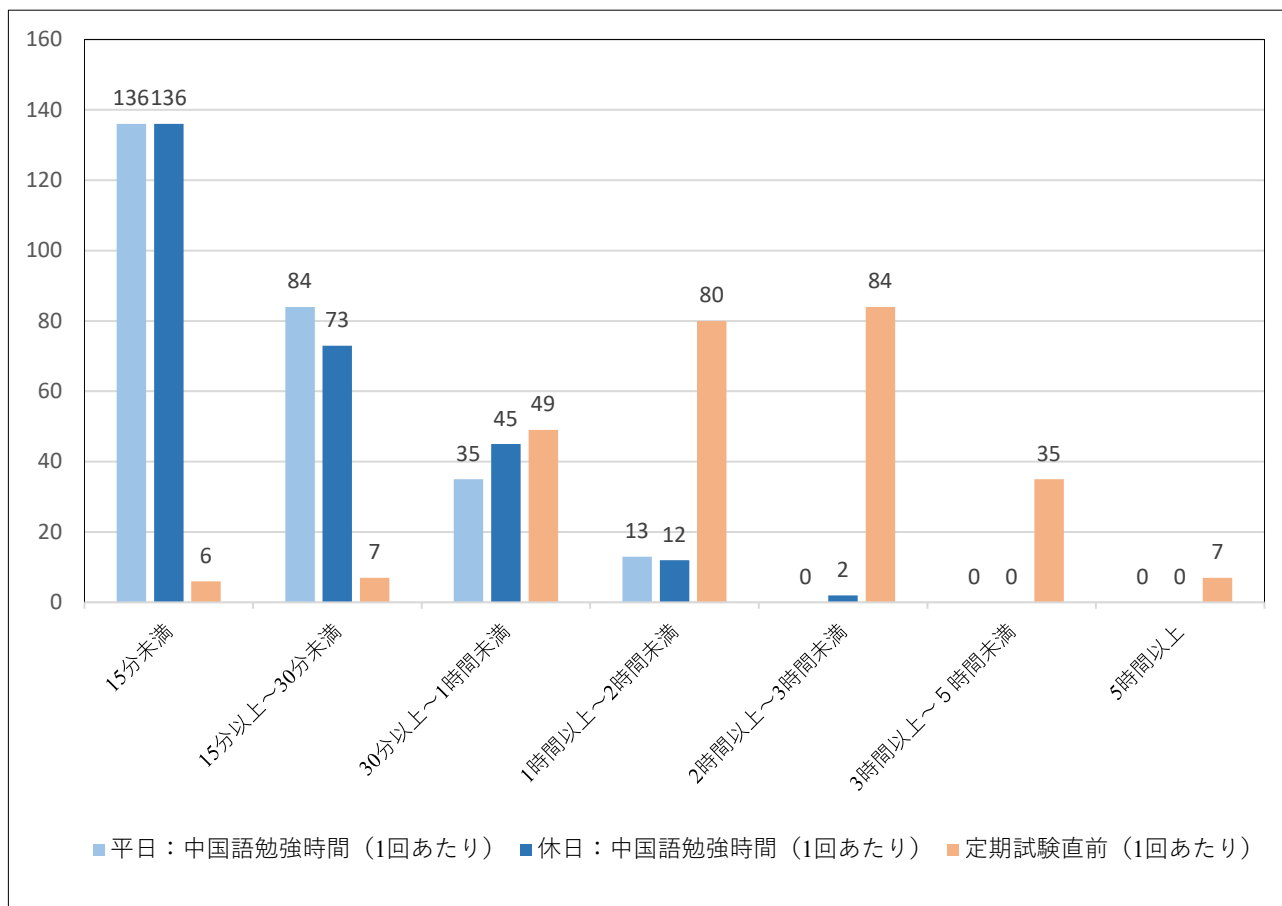
本格的に中国語科目共通試験を実施する上で、共通試験の実施時期や共通試験以外の試験や課題の内容等の評価方法についても総合的に検討する必要がある。そこで、アンケート調査⁸から見られる、現時点での学習者の学習時間及び学習方法を把握することで、今後の検討材料としたい。

3. 1. 学習時間

まず、学習者の中国語学習時間について、通常の日「平日」及び「休日」、そして「定期試験直前」の1回あたりの学習時間についてのアンケート(回答者数:268名)結果(複数回答可)を次にまとめる。

⁷ 中国語科目共通試験の成績評価全体の導入割合や、共通試験以外の試験項目の実施方法等については現在議論の最中である。

⁸ 本アンケート調査は、令和5(2023)年前学期に実施した「中国語科目共通試験」の後に、共通試験を受験した学習者全員に対して実施した。

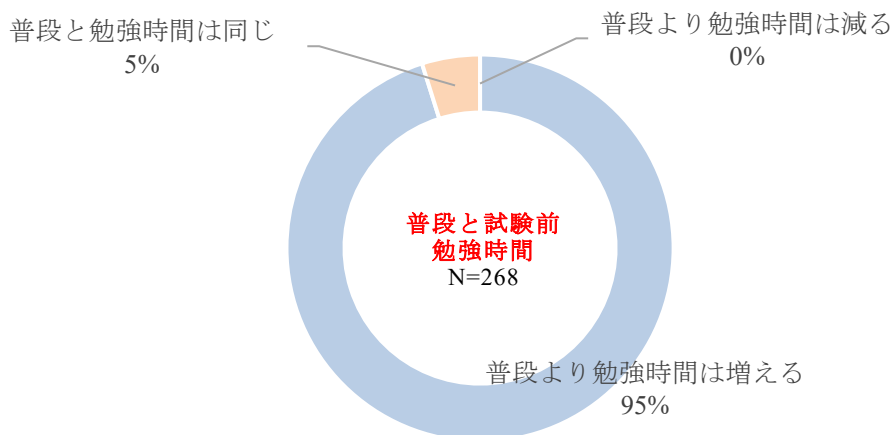


グラフ 1 通常（平日・休日）と定期試験前の学習時間

試験直前以外の通常の日には、休日の方が若干学習時間が増える程度で、平日であっても休日であっても学習時間にそれほどの差は見られない。また、定期試験直前以外では学習時間が「15分未満」と答えた学習者が最も多く、続いて「15分以上～30分未満」までとなり、1回あたり30分未満とした学習者が平日82%、休日78%であった。しかし、定期試験直前となると、やはり学習時間が急激に増加することがグラフ1から分かる。

また、「中国語の定期試験直前には普段より中国語の勉強時間は増えるか」という質問に対する回答をグラフ2にまとめた。結果として95%の学習者が「普段より勉強時間は増える」と答え、「普段より勉強時間は減る」とした者はいなかった。このことから、中国語科目共通試験の実施回数、実施時期、また他の評価活動を行う時期等を検討し、より効果的な中国語学習を行う上での一つの参考としたい。

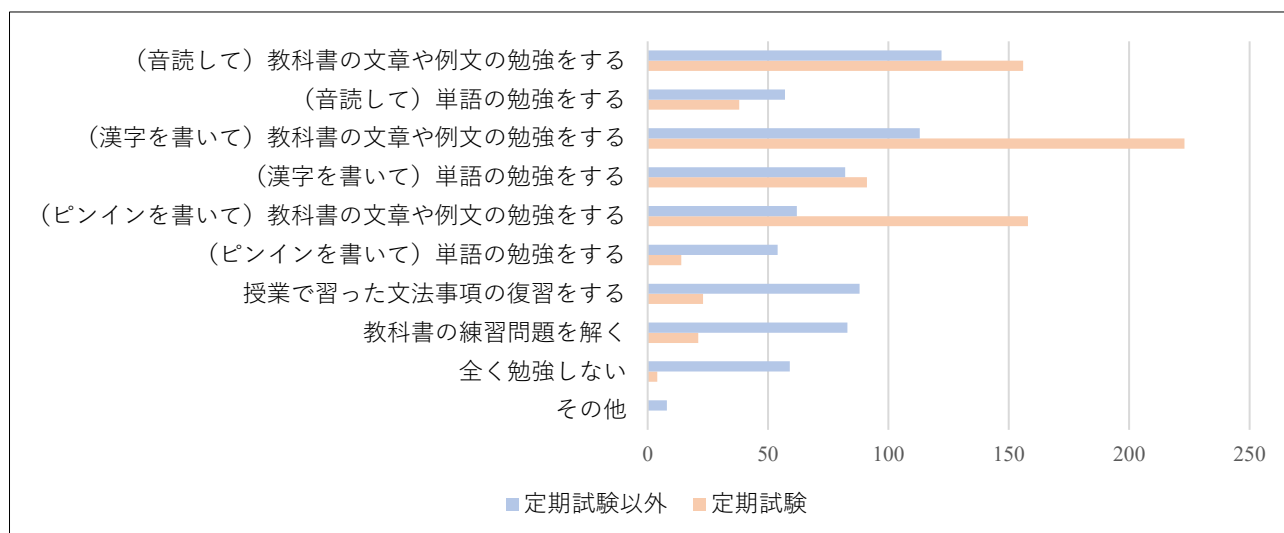
中国語科目共通試験の実施方法についての報告
—授業外学習時間と学習方法—



グラフ2 普段と定期試験直前の学習時間の増減

3. 2. 学習方法

最後に、学習方法が定期試験以外の時期と定期試験の時期で、どのように異なるかということアンケート（回答者数：268名）結果（複数回答可）より考察した。その結果をグラフ3にまとめる。



グラフ3 時期（定期試験以外・定期試験前）による学習方法の違い

まず、定期試験以外の時期と比べて定期試験の時期に比較的大きく伸びている学習方法は、「教科書の文章や例文を勉強する」ということであり、そのやり方として「漢字を書く(223)>ピンインを書く(158)>音読する(156)」の順序となる。また、他に顕著な結果として、定期試験以外の学習の場合は、「授業で習った文法項目の復習をする(88)」、「教科書の練習問題を解く(83)」という文法の確認作業や練習問題を用いた確認を行う学習者が比較的多いものに対して、定期試験の際にはこれらの活動が減少してい

ることが見て取れる。ここから、試験直前には、教科書に出てきた文章や例文等を暗記する作業が主要な勉強方法となっている可能性がある。

このように、試験にあわせて学習者の学習方法も変化することが見て取れる。よって、中国語科目共通試験及びその他の評価等の内容や実施時期を綿密に計画し、学習者がより効果的に中国語学習を進められるように工夫することができるのではないかと考える。これらの調査結果についても、今後の評価構築の際の検討材料としたい。

4. まとめ

本教育改善プロジェクト成果報告は、令和 5(2023)年度前学期に教養教育科目の中国語の授業で、試行的に実施した中国語科目共通試験についての実施方法やその結果についてまとめたものである。また、学習者の学習時間と学習方法について、アンケート調査の結果を考察し論じた。これについては、今後、共通試験の作成及び実施の検討をする上での一つの材料としたい。

福田 翔

富山大学教養教育院